

黄落

koraku

儀具尚孝

黄落の道まつすぐに急がずに

俳人として成熟期に達した作者の歩むべき姿を
自画像として捉えた。

「人生観」までが垣間見える作品である。
目映いばかりの黄落の中、自身の交々を
じっくり咀嚼しながら
「まつすぐに」「急がずに」行く。

誰もがこうありたいと願うであろう。

千田百里

ひ
ん
が
し
の
空
ほ
の
ぼ
の
と
大
且

去
年
今
年
ひ
と
駅
つ
な
ぐ
大
師
線

寒空をぬくめて達磨供養の炎

法螺貝の音に始まる鬼やらひ

山門の古りて老舗の草だんご

老梅のなほ健やかに匂ふなり

青空を少し揺らして糸ざくら

ひと枝の池に伸びたる花の影

花びらが模様を糸がく水の上

いちまいの石橋くぐる春の鯉

詮もなきことは忘るる春の風

柔らかき風に解るる牡丹の芽

風に乗る五匹五彩の鯉のぼり

空や広し風や美味しと五月鯉

花は葉に谷中の墓地に青電話

葉桜のひろぐる蔭の深さかな

靖国の庭にて母の日とおもふ

たましひを鎮めて杜の若葉風

薄暑かな途中で曲がる団子坂

衣更へて銀座通りを風とゆく

しつかりと結んでもらふ祭帯

遠ざかる日呼びもどす祭笛

し
づ
け
さ
を
水
に
映
し
て
花
菖
蒲

現
し
世
の
塵
に
染
ま
ら
ず
白
菖
蒲

あ
ぢ
さ
み
や
色
鉛
筆
の
減
り
具
合

地
上
に
も
星
あ
り
と
せ
ば
額
の
花

歩みゆく空のひろさや水芭蕉

万緑の中に総身を溶かしゆく

緋目高に水槽といふ自由あり

何用もなけれど父の日と思ふ

前略のあとの長さよ走り梅雨

点滴のまだ半ばなる梅雨晴間

大寺のしじまをつつむ夏木立

護摩壇の炎のいろの涼しさよ

地下街を出れば青空パリー祭

水無月の灯の溢れたる隅田川

横縞のシャツのすずしき港町

白南風や汽笛のとどく異人館

一日の空
みんな
みんなの
声に
明け

空蟬の
まなこ
の中
にある
虚空

少年の
日の
よみが
へる
夏の
空

向日葵
や母に
近づく
子の
背丈

おのづから風鈴市に風生まる

一瞬の風鈴市のコンチエルト

風鈴を吊るして風を招き入る

風鈴の鳴りて静けさ深まりぬ

朝風にけふのはじまる百日紅

夕暮の風をさそひて合歡の花

一つ家に二つの明かり夜の秋

手花火の散つて深まる闇の色

著者略歴

磯貝 尚孝 (いそが い・なおたか)

昭和 18 年 東京都生まれ

平成 20 年 NHK 文化センター柏教室(講師・北川英子)受講

平成 22 年 「神」入会 能村研三に師事

平成 25 年 俳人協会会員

平成 27 年 「神」同人

平成 29 年 句集『清閑』上梓

令和四年コレクションシリーズ 12

『黄落』ころもく

三年三月二十一日 朝報発行

著者 磯貝尚孝

入会 西井洋子

発行 株式会社東京四季出版

〒100 東京都千代田区山手本町二上二二二八

電話 ○区二三九九二二八〇

FAX ○区二三九九二二八一

ask@tokyo-shiki.co.jp

<http://www.tokyoshiki.co.jp/>

・製本 株式会社シナノ

価 本体二七〇円+税

igai Naotaka 2020. Printed in Japan

4978-4-8129-1011-5